



キーワードは「せんい・ファッション」

2013年1月30日、一宮市とイタリア・トレビーゾ市は
友好都市になりました！

愛知県一宮市



人口 386,296人（2015年12月）
面積 113.91 km²
産業 せんい産業を基盤として繁栄し、
地場産産地のブランド強化を推進

ヴェネト州トレビーゾ県トレビーゾ市



人口 83,145人（2013年12月）
面積 55.5 km²
産業 BENETTON、DIADORAなどの
本社があり、アパレル産業が発展

1. イタリアとの交流のきっかけ

一宮市とイタリア共和国との関係は、2005年の愛・地球博から始まり
ました。愛知県が提唱した「一市町村一国フレンドシップ事業」において、
一宮市は万博期間中にイタリアをはじめとする6ヶ国のホストを務めました。

一市町村一国フレンドシップ事業は、万博によって地域に根ざした国際交
流が万博終了後も引き継がれ、世界をつなぐ架け橋となることを期待してい
ました。一宮市はその理念を引き継ぎ、万博後も交流事業や国際理解講座等を継続して実施し、みな
さんにイタリアをはじめフレンドシップ国への理解・関心を深めていただく機会を提供してきました。



2. トレビーゾ市との交流のはじまり

こうした流れの中で、単なる友好交流にとどまらない経済発展
を含めた新たな交流の可能性を模索し、当時一宮市に勤務してい
たイタリア人国際交流員リーザを介し、2007年から彼女の出身
地であるトレビーゾ市にあるIUAV大学ファッションデザイン
学科の学生を一宮市に招致する事業を開始しました。

それは、「せんい・ファッション」を共通テーマに、一宮地場
産業ファッションデザインセンター（FDC）の協力のもと、未
来のイタリアファッション界を担うであろうファッションデザ
イン学科の学生に、この尾州でつくられた生地を提供して作品を製
作してもらい、優秀者を一宮市に招致するというものです。

招致した学生らは約1週間一宮市に滞在し、FDCでの講義や
繊維関連企業・教育機関の見学、研修を通じてテキスタイルに関
する知識や技能を学ぶとともに、ホームステイや小学校訪問によ
り市民との交流を行います。*2014年度で終了



元国際交流員リーザ・ダルブスコ



市内繊維関連企業の見学

3. 友好都市提携に向かって

2010年7月、I U A Vから招待を受け、市長および関係者が初めてトレビーズ市を訪問しました。その際、トレビーズ市長との会談も開かれ、その場で友好都市提携が提案されました。

また、同年にはトレビーズ市において、日本を愛する有志による市民イベント「NIPPON-BASHI」が、翌年には一宮市において、イタリア音楽ステージやイタリア料理の提供などをおこなう「イタリアフェア」が始まり、それぞれの市民にお互いの国が紹介されることによって、友好都市提携への機運がさらに高まりました。

NIPPON-BASHI



左：日本の雑貨に興味津々なトレビーズの人たち。日本のアニメのコスプレ姿も見られます。
右：一宮市のマスコットキャラクター・いちみんを抱いたトレビーズ市民。いちみんは両市の架け橋として大活躍しています。

イタリアフェア



左：イタリア出身のアーティストによる、ステージパフォーマンス。
右：市内高校生による、手づくりイタリア料理のプレゼント。市内有名ケーキ店による、イタリアンスイーツの販売ブースもありました。

他にも2008年から、両市の小学校間で絵手紙交換交流も始まりました。絵手紙には学校や家庭での生活の様子、好きな食べ物やスポーツ、アイドルのことなどがいきいきと描かれています。*2014年度で終了



4. 友好都市提携の実現

こうした長年にわたる交流活動が実を結び、2013年1月30日、トレビーズ市役所において友好都市提携調印式が執り行われ、一宮市初の海外友好都市が誕生しました。谷一夫・一宮市長（当時）は「絆を大切に交流を通じて互いに発展し、次代を担う子どもたちに輝かしい未来を残したい」と演説し、その思いを込めた直筆の「絆」の色紙を、ゴッポ・トレビーズ市長（当時）に手渡しました。ゴッポ市長もまた、「人間同士の心のふれあいを大事にしたい」と語りました。

握手を交わし両市の「絆」を深める谷市長(左)とゴッポ市長(右)



今後は現在の交流事業を継続・発展させるとともに、友好都市提携をきっかけとした新たな交流が生まれることが期待されます。さっそく、2013年3月に市内私立中学校の強豪柔道部がトレビーズを訪問し、現地の名門柔道クラブと親善試合をおこなったり、2013年度から市立中学生海外派遣事業の訪問先がトレビーズを含むイタリアに変更になるなど、新たな広がりを見せています。

一宮市国際交流協会